令和４年度　江戸川区立第六葛西小学校　学校関係者評価　最終評価用報告書

学校教育目標	・考える子（重点目標） ・思いやりのある子 ・やりぬく子　　・元気な子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・児童一人一人、教職員一人一人が輝き、笑顔があふれる学校 ・主体的に考え活動する子供・他者と豊かにかかわる子供 ・自己研鑽に励み、互いに学び合い、高め合う教職員
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞・6年以下の若手教員と経験がある教員のOJTの充実を図り、年に1回以上、校内で研究授業を行うことにより、若手教員の授業力向上に対する意識が高まった。 ・校内研究『主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくり』～ICTの効果的な活用を通して～の初年度として、各分科会授業でタブレット端末を活用し、互いの考えを伝え合う対話的な学習を展開することができた。 ＜課題＞ ・学力向上を目標に、習熟度に応じた少人数学習や個別学習に取り組んだが、基礎・基本的な学習内容の定着や家庭での学習習慣がまだ身に付いていない児童がいる。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価 取組	自己評価 成果	自己評価 成果と課題	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 コメント	来年度に向けた改善策
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主な事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・一人一台端末やICT機器を積極的に活用し、多様な学びの実現を図る(校内研究2年目)。 ・年3回の東京ベーシックドリル診断シートの活用。 ・外部講師による放課後学習教室(ろくっこAS二期制2～6年、週1回)。 ・年8回の区小教研、各種研究会での学びを校内で交流。 ・年3回の校内授業観察他、年次研、若手研究会など実施。	・「先生たちは分かりやすい授業を目指し、授業を工夫している」肯定的評価90%以上（保護者）。 ・東京ベーシックドリル診断シートの達成率2～6年、70%。 ・「全国学力・学習状況調査」算数の都の平均正答率を超える。	A	B	○「先生たちは分かりやすい授業を目指し、授業を工夫している」肯定的評価88.4%（保護者）分からないと答えた保護者が9．0%いることと併せると概ね達成したと考える。 ○校内研究を進め、授業観察時にICTの活用はもとより教師の授業力が向上している。 ○「ろくっこAS」のクラス分けを少人数にした効果もあり、下位層が引上げられ、東京ベーシックドリルの1学期の平均正答率はどの学年も上がった。2・4年は70%の達成率を超えた。 ○6年生は算数の都の平均正答率を2%上回った。 ●東京ベーシックドリル学期の平均正答率は、3年5上，9，5年67．6，6年60．4%と目指す70%を切っている。	B	・タブレットとそれを表示するディスプレイを使い、黒板にもいろいろ貼り、よく工夫された授業だと感心いたしました。 ・すごく積極的に授業を受けている姿を見て、学校も楽しく楽しそうだと安心しました。 ・デジタル化が進んでいるからこそ、あえて伝統的でアナログ活動の中で親子がコミュニケーションをとり、物事を考えることに意義があると思います。先生の話に耳を傾け、風潮作に真剣に取り組むお子の姿に成長を感じました。何よりその時間を楽しむことができました。 ・一方的な指導ではなく、考えさせる指導で良かった。 ・少人数算数指導では、静かに集中して課題に取り組む姿や、様々な解き方を考え、積極的に手を挙げる姿が見られ、さすが高学年と思いました。熱心なご指導、感謝します。	・校内研究では、専科の授業も加えて今年度同様の本の研究授業を実施する。若手教員の研究もさらに充実させ、授業改善を図る。 ・保護者に様々な授業の公開をし、学校での様子を理解していただき、より子供が学校や授業を楽しめる環境を作り、子供の学力を伸ばしている。 ・「ろくっこAS」について、外部委託業者と指導内容、学習形態やメンバー交代の時期などの連携を図り、子供の学ぶ意欲を高めている。 ・国や都・区の動静も見ながら、アナログとデジタルの有効な用い方を考えて指導する。 ・さらに、基礎・基本の定着を図っていく。
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・指骨科の授業の工夫・改善。 ・週1回の休み時間を活用した運動遊び「ろくスポタイム」、たてわり班遊び。 ・年1回のなわとび月間、マラソン月間。	・運動会での肯定的評価90% ・週1回の運動遊び「ろくスポタイム」、たてわり班遊び年間30回以上実施。 ・なわとび月間、マラソン月間・・・年1回実施	A	A	○週1回の「ろくスポタイム」、たてわり班遊びは予定通り実施できている。 ○なわとび月間は実施中。1年生が56年生を応援する場面も見られた。マラソン月間は、徐々に体力、走力が上がり、タイムも速くなっていった。マラソン大会は初の平日開催であったが保護者の応援も多く、子供たちが意欲的に取り組んでいた。	A	・先生たちと指導お疲れさまでした。統体操もダンスもみんな上手で子供の成長を見ることができ、楽しませていただきました。 ・先生の踊りはキレレで素晴らしいなと思いました。子供たちのために頑張ってくださっていることが伝わります。 ・家でなわとびの話をよくしてくれます。なわとびを楽しんでいることが分かります。体力がついてきたようです。 ・家族でマラソンに取り組みました。子供の成長を感じます。	・今後も継続して、体育の授業を改善し、運動遊びを通して様々な運動をする機会をつくり、運動の楽しさを味わえるよう指導していく。 ・学級でも積極的に外遊びを充実させていく。 ・なわとび名人によるデモンストレーションは中止となったが、ラグビーチームやプロ野球関係者による出前授業が実施された。今後も、様々な機会を捉え、運動意欲・体力の向上を図っていく。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実。 ・読書月間の教員による本の紹介、西葛西図書館によるブックトーク。 ・保護者や読み聞かせボランティアとの連携。	・月1回以上の図書館ボランティアと協力して学校図書館を整備。 ・月1回以上の調べ学習などにおける活用。 ・年1回の読書月間の教員による本の紹介。 ・各学年年1回の西葛西図書館によるブックトーク等の出前授業の実施。 ・各学月1回以上の保護者や読み聞かせボランティアとの連携。	A	B	○月1回以上、図書館ボランティアと協力して学校図書館を整備できている。 ○読み聞かせボランティアや西葛西図書館によるブックトークも実施でき、様々な本が紹介され、児童は本に興味をもっている。 ○一人1台タブレット学習が進んでおり、図書館だけでなく調べ学習が実施されている。より、図書館の効果的な利用を考えるようになってきている。	A	・図書室には、きれいに整頓されており、気持ちよく読書活動ができる環境であると思います。今後も、図書ボランティアを協力して、活用しやすい図書室にしていただきたい。 ・朝読書、読書科の授業、読み聞かせボランティア、ブックトークなど、読書に親しむ機会がたくさんあってありがたいです。 ・子供たちが一生懸命聞いてくれるのでこちらも楽しく読み聞かせができます。 ・「ふっくまも」という名称や読み聞かせの会のシステムなども女性がどちらも参加しやすい名称やシステムに変更して欲しいと思いました。	・継続して、蔵書分類の割合の最適化を目指し、TCT化を図るなど使いやすい図書室の環境整備を行う。 ・「ふっくまもの名称等を検討し、保護者がより参加しやすい環境をつくる。 ・授業他、様々な機会を捉え、読書の楽しみを見出せるよう指導していく。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・コンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・年1回の特別支援教育研修会を実施し、通常学級における指導・支援の充実。 ・年11回の特別支援教育校内委員会を実施し、特別支援専門員や、SC、特別支援教室巡回指導教員と連携して組織的な対応。 ・「きこえの教室」との直接交流や、副籍交流により、全ての児童に個別最適な学びがあることを児童も教師も知り、学習の充実を図る。	・年1回の特別支援教育研修会の実施達成。 ・年11回の特別支援教育校内委員会の実施達成。 ・年5回の直接的な副籍交流1名、毎月のお手紙による副籍交流2名実施。	A	B	○計画された研修会は実施し、個別の教育支援計画及び個別の指導計画の書き方を知り、一人一人のニーズの把握の仕方の理解が深まった。 ○計画された特別支援教育校内委員会も実施し、巡回指導教員や SC、Cの見立てなども生かして、特別な支援が必要な児童の理解が深まっている。 ●保護者との連携が図られ、1回の会議で協議できる児童の人数が限られている。会議の内容や進め方の検討が必要と考える。	B	・いろいろな児童がいる中でのご指導、大変だと思いますがいつも熱心にご指導してくださり、ありがとうございます。 ・今後も特別な配慮や支援を要する児童への指導方法を検討したり、専門医や他の機関に繋いだりするなど、個別の対応を進めていただきたい。	・支援が必要な児童の関わ感を保護者に伝え、適切な支援ができるように環境を整えていく。 ・継続して、校内委員会など教師の研修の機会を設定する。 ・会議の内容や進め方の検討を行っていく。
	子どもたちの健全育成	・子どもたちの健全育成に向けた取組の強化	・日常の児童の観察と保護者との連携。 ・年3回のいじめ調査によるいじめの早期発見と対応。 ・年3回以上のいじめ不登校対策委員会の実施による組織的な対応。 ・毎週金曜日の生活指導校内連絡会の実施による生活指導連絡協議会の報告、日常的な教職員間の児童の問題とその対応の共有。 ・日常的なSSWや児童相談所との連携。	・年3回のいじめの調査と結果に対応する講習の実施。 ・年3回以上のいじめ不登校対策委員会の実施。 ・毎週金曜日に生活指導校内連絡会の実施。 ・「学校は、子供たちの様子を見守りながら、いじめや不登校などがない学校にするために取り組んでいる」肯定的評価80%以上。	B	B	・「学校は、子供たちの様子を見守りながら、いじめや不登校などがない学校にするために取り組んでいる」肯定的評価77．5%であった。取組みについて「わからない」と答えた評価が17．3%であった。否定的な評価15%であったため、ほぼ肯定的に捉えていただいていると考える。 ○いじめ調査とその後の指導、生活指導主幹による研修により、教員のいじめ防止に対する見識が深まった。 ○児童のいじめ防止の意識が向上した。 ●不登校傾向や不登校の解消に対する意識が不足している家庭がある。	B	・細かいことでも連絡をいただき、早期にいじめの問題を話し合う機会を設けていただいたことは良かった。今後も、あたたかく見守っていてほしい。 ・担任の先生が登校支援をSCやSSWと連携をとってくれているのがありがたい。 ・家庭との連携を深めた上で進めることが大切である。 ・各家庭にあった効果的な対応ができるとよい。	・児童が記入したシートを活用し、今後に生かしていく。 ・保護者と連携した情報を教員間でも共有し、子供の健全育成を図っていく。 ・今後も、関係機関と連携し、不登校の改善を図っていく。 ・学校のいじめや不登校対策について紹介し、保護者の理解を深めていく。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・日常の連絡や個人面談、運動会・学校公開・展覧会などの行事の感想から評価を実施。	・年4回の学校公開、年2回の行事や個人面談で肯定的な評価90%を目指す。	A	A	○学校公開、運動会、展覧会、学校評価などでの保護者の肯定的な感想が多かった。 ○保護者アンケート回答者の中では肯定的回答95.0%を目標を達成した。	A	・コロナ禍で活動が制限されている中で学校はとても頑張ってくれていると思います。 ・この何年かコロナ で学びの場や遊びの場が奪われつつあったので子どもらのびのびと楽しそうにしている姿を見れると嬉しいですね。出席番号で分散して参観だったので参観者の人数が少なく落ち着いて授業をみることができました。 ・コロナ禍ではありながら、様々なイベントも工夫して行っていただいております。展覧会は素晴らしく、また、開催していただきたいと思いました。 ・欠席、遅刻の連絡手段にformsを利用できるようになったのは素晴らしいと思います。他にもどんどんICT化を進めてペーパーレスにしていただきたいです。 ・今回のようにアンケートなどはアプリを利用したオンライン形式で配信いただけますこと、大変ありがたく思っております。今後もプリント配布ではなく、オンライン形式での配信を希望いたします。	・欠席・遅刻連絡、学校公開、学校評価のICT化を進めてきた。今後も保護者・教員共に効率的なICT化を進めていく。 ・肯定的な意見を抜粋して教職員に知らせるとともに、保護者や地域の人にも還元するように、連携の強化を図っていく。 ・コロナ感染症対策への考えかは保護者により様々であるが、課題についても精査し、期待に応えられるよう改善を図っていく。
	PTA活動の充実	様々なPTA活動を通して、健全な児童を育成し、学校の教育活動への理解・協力を得られるようにする。	・各委員会の他、サマーキャンプ、ろくっこまつり、親子レクなどPTAと協力して開催する。	・年2回以上の教員の参加を目指し、協力関係を築いていく。 ・児童が楽しむ行事を設定することで保護者の方も交流をもち、子育てを楽しみ、悩みを相談できる環境を整える。	A	A	○ほとんどの教員がPTA行事に参加し、保護者との協力的な関係を構築し上がっている。 ○予定していた行事は、時期を変更しながらも開催できている。	A	・いつも、子供たちのために熱心に取り組んでいただき、ありがとうございます。また、コロナ対策のため様々な制限がありますが開催してくださり、ありがとうございます。早く、制限がなく楽しめるようになるとよいですね。 ・共働き世帯が増え、核家族化が進んでいますので、時代に合った、PTA活動のあり方を考えていっていただけたらと思います。	・コロナ感染症の状況を把握し、適切な対応をしながら、学びを止めずに行事を開催していく。 ・継続して、日頃からこまめに家庭に連絡・相談・報告を行う。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・毎日1回以上、一人一台端末を積極的に活用して授業改善を図る。 ・毎月1回、ノー残業デイを設定し、学校だよりで保護者に周知する。 ・勤務時間外や休日に自動応答メッセージによる電話対応を実施する。	・「先生たちは分かりやすい授業を目指し、授業を工夫している」肯定的評価90%以上。 ・毎月1回のノー残業デイと、自動応答メッセージによる電話対応などにより、保護者にも働き方改革の実践を周知する。	A	A	○校内研究や研修でICTの有効活用が進み勤務時間の軽減が図られ、学習に興味をもっている児童が増えている。 ○学校だよりを利用してノー残業デイを保護者に知らせており、留守電対応も行っている。 ○10月からはFoms、2月からtetoruでの出欠確認を実施した。	B	・サマーキャンプの土曜出勤は、振替休業になりましたが今先生たちが健やかであることが、学習の健やかさにつながります。先生たちが気兼でいられる勤務になることを祈っています。 ・コロナ対応の中で、いろいろ工夫していただき学校行事を実施していただきありがとうございます。消毒や登下校の見守りなど、保護者のボランティアを募集してもよいのではないでしょうか。 ・学校に連絡したくても、仕事をしていてなかなか連絡がとりにくい。	・今後も自分たち で勤務時間を意識しながら働くと共に、ICT支援員による校内研修の成果などをいかして、より効率の良い働き方を考え、実践していく。 ・継続して、保護者に実施している働き方改革を知らせていく。